

感染症に気をつけよう



1. 全数報告感染症(感染症法における 1～5 類感染症)平成20年11月

麻しん(はしか)は、6 例の報告がありました。

現在までに 1400 例以上の報告があり、全国の約 14%です。10 代が過半数を占め、予防接種前の 0 歳児にも多く発症しています。また、患者全体の約半数が予防接種を受けていません。

腸管出血性大腸菌感染症 (O157 等)は 11 例の報告がありました。

レジオネラ症は 2 例の報告がありました。1 月からの累計報告数は 30 例となり、現時点で多かった昨年 1 年間の報告数 28 例を上回っています。

2. 定点報告感染症 (感染症法における 5 類感染症) 平成20年10月27日～11月30日

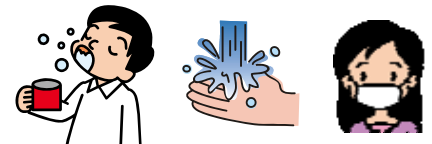
疾患名	市内流行状況	コメント
<u>インフルエンザ</u>		これまでに、西、中以外の16区から報告があり、区によってはすでに流行期に入りつつあります。
<u>RSウイルス感染症</u>		例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。乳児や疾患を持つ幼児では重症になりやすく、注意が必要です。
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>		例年、冬季にも流行が見られるので、今後の動向に注意が必要です。
<u>感染性胃腸炎</u>		流行の大きかった一昨年ほどではありませんが、昨年と同じくらいを推移しています。今後は増えていくと思われるので動向に注意が必要です。
<u>百日咳</u>		例年より報告が多くなっており、三種混合予防接種後の幼児や成人の報告例も見られます。注意が必要です。

：流行、　：やや流行、　：散発、×：患者報告なし

：増加傾向、：横ばい、：減少傾向

3. 気をつけたい感染症とその予防法

- ・ 麻しん(はしか)に気をつけましょう。唯一の予防方法は、ワクチン接種です！
- ・ インフルエンザに気をつけましょう。今年は過去 6 年間で最も流行開始が早かった昨年と同時期に初発の報告がありました。予防には、予防接種、うがい、手洗い、マスクなどが有効です。
- ・ ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に秋から冬にかけて流行する感染症です。最も有効な感染予防策は手洗いです。



4. 予防接種について

- ・ 麻しん(はしか)の予防接種を受けましょう。
横浜市では、緊急対策として、1 歳～高校 3 年生に相当する年齢で、麻しんの予防接種を受けていない方、麻しんにかかっていない方への、市費による予防接種(任意接種)を実施しています。
<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/mr-kinkyu.html>
- ・ インフルエンザの予防接種を受けましょう。
横浜市では、高齢者の方がインフルエンザ予防接種を受ける場合、接種費用の助成を行っています。
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/influenza/influ_yobou.html
是非、この機会に接種を受けましょう！

詳しい情報は横浜市衛生研究所ホームページ「感染症発生状況」をご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html>

こどもの感染症については、

こども青少年局ホームページ「こどもの病気とホームケアこどもに多い感染症編」をご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kodomo/katei/kodomo_kenkou/homecare.html

